

# Hachioji MAIL NEWS



輸送サービス労組八王子地本



ホームページ

2023.11.20

No.061



Twitter

団体交渉開催！

2023.11.17

八地申  
第1号

『誰もが鉄道の安全を創り出し、  
安心して働くことの出来る職場を求める申し入れ』

その5

5. ジョブローテーション・統括センター化等、会社施策による人事異動により要員が逼迫している職場が複数ある。今後の具体的な解決策を示すこと。

回答

これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方の実現により、安全・サービスレベルの向上を図るとともに、成長意欲・チャレンジを具現化できるフレキシブルな組織（職場）で一人ひとりの活躍フィールドを広げていく考えである。なお、業務の運営に必要な要員は確保している。

## 議論経過

※特徴点を記載

### 労働組合

- 「必要な要員」とは、年休取得者や求職者を見越しているのか？
- 休日出勤の実績は把握しているのか？
- 乗務員区では指導担当が乗務するように言われたことがある。
- 超勤が常態化している現状で「必要な要員」は確保されていると言えるか？
- 企画業務も満足にできない現状だってある。これは明らかに要員が足りないからではないのか？
- 異動によって要員が不足していると感じている。例えば、勤務発表後に勤務指定が変更され、訓練のはずが乗務になったり、1列車を複数名で乗務しなければならなかったりしている。
- その状況がよくないのでは？
- 要員不足が普通になっている。独り立ちまでの期間も短縮され、不安なまま乗務している。ジョブローテーションは中止を。
- 兼務発令により、どこの要員なのかわかりにくくなっている。
- 改めて問うが、「業務の運営に必要な人員」は確保されているか？

### 会社担当者

- 取得者を見越しているが、年休申し込みが集中することで要員不足が発生することもある。しかし、これまで示した**出面数カツカツの社員数を確保しているわけではない。**
- していない。**把握しようと思えばできるが。**
- 業務の繁閑があってそうしたのでは。その現状をなくすために**努力している。**
- 超勤を削減する**努力はしていく。**
- 何をもって「不足」とするかだ。会議もオンラインを活用してフレキシブルに実施すればいい。臨時列車設定にしても「不足」は**一時的なものだ。**
- 異動は業務量の平準化が目的ではない。任用の基準だ。勤務指定の変更は就業規則上できることで、その**実例はあなたの感じ方の問題だ。**社員数は可変するもので、**減ったことで問題が顕在化したように見えただけ。**
- それは貴側の認識。当社とは合わない。だが超勤削減のために**フレキシブルな働き方を設定してきた。**
- ジョブローテーションは安全・サービスレベルの向上にある。箇所により必要な教育は実施している。
- その時々で要員は変わってくる。
- **されている、と言っても業務の繁閑はある。**

ポイント

現実を厳しく指摘しても上から目線で、声に向き合わず。現場の慢性的な要員不足という実態を「感覚」で受け止め、ひたすら「業務量の平準化」「超勤の削減」「働き方改革」といった対策を述べるに終始する会社の姿勢は、現場を見ていない証左と言えます。

施策推進は現場の声が全て。会社は現実を直視せよ！